

【デザイン開発ヒストリー】

# ユピテル・スーパーキャット『SG-500DW』

by フミアデザイン



日本のハイテクをイタリアの独創性でデザインしたらどうなる？  
イタリアの感性が現代日本の先端技術にインスパイアされたら？

10月16日、ユピテル工業はレーダー探知機「スーパーキャット」シリーズのフラッグシップ機『SG-500DW』を発表、11月上旬より全国のカー用品店で順次発売する。

同社は2月にイタリア人デザイナー、エンリコ・フミア氏をデザイン顧問に迎えており、SG-500DWはフミアが監督した最初のユピテル製品だ。

## ユピテル工業の自負と攻勢

フミアはイタリアのカロツェリア、ピニンファリーナや、メーカーのフィアットグループに長く務め、代表作にアルファロメオ『164』、同『GTV』、同『スパイダー』、ランチア『Y』（イプシロン）、マセラティ『3200GT』（インテリア）などをあげられる。現在は独立し、トリノを本拠に、活動分野を自動車以外のプロダクトにも広げつつある。

レーダー探知機とは、速度測定装置のレーダーを感知して警報を発し、ドライバーに安全運転を促す装置だ。ユピテルは無線全般に関する機器のメーカーとしての歴史があるが、現在はレーダー探知機を主力商品とし、エンジンスタターや自動車盗難防止のセキュリティ機器も手がける。ユピテルは年間100万～110万台といわれるレーダー探知機市場でシェア約60%を占めるトップメーカーだ。

ユピテルがフミア氏を起用した理由を、商品企画部・商品企画課の倉田成治課長は次のように説明する。「レーダー探知機ではユピテルのデザインが業界スタンダードになってしまった。デザイントレンドを作ったと自負するが、そのトレンドの中に自ら埋没しがちだ。さらに他社から類似デザインが登場し、差異化を図る必要もあった。チラシに掲載される写真の程度ではメーカーの違いが分からない。デザインの差異化を図ることでユーザーの満足度を高めたい」



10月16日、新製品発表会でのフミア氏

じつは代表取締役社長の安楽憲彦氏自身、かねてよりデザインに力を入れたいと考えていたのだ。レーダー探知機は市場が熟成してきたので大幅なシェアアップは今後難しくなる。が、何もしていないとやはりシェアは落ちる。そこで著名なデザイナーを起用しデザイン面で特化したモデルを出したいと願っていたところ、フミア氏と接する機会を得て、フミア氏のデザイン顧問就任にいたった。

## デザインで進化し、デザインで挑戦する

ユピテル工業の安楽社長は、製品が機能を提供する時代は終わった、とさえ言う。「技術的な裏付けはユピテルにもうあるということだ。そして今まではデザインなしでも製品が売れた。次のステップとして、総合的な顧客満足度を高めたい。パッと見ていいな、と思えること、そして使いやすいこと。それがデザインだ」

いっぽうフミア氏はユピテルの仕事を引き受けた理由として、日本が好きなのをあげる。「日本に初めて来て20年以上たつが、来るたびに発見があり、デザイナーとして刺激的な場所だ。そこでデザインできるのは名誉ですらある」



1

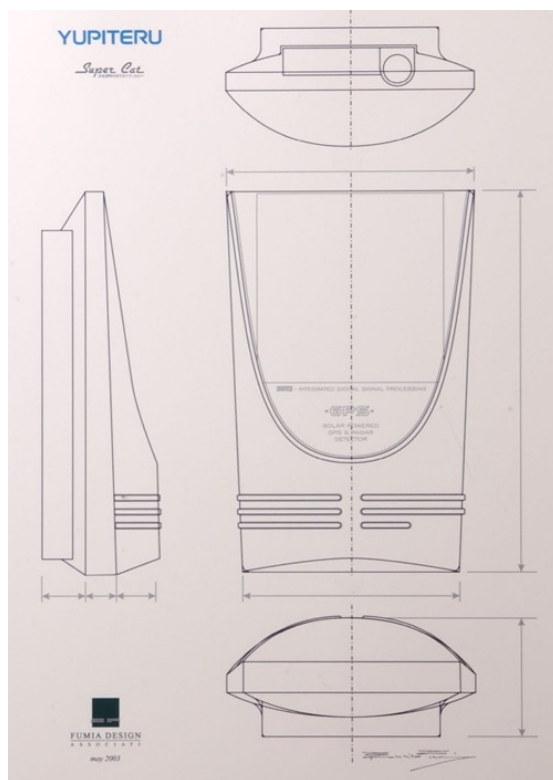


2

- 1) 最初にフミア氏が提案したドローイングの一部
- 2) 採用案の「G」案。G=7番目がバリエーションの中間ということは?
- 3) 開発中期のドローイング。ボリューム感を減らすために片側を絞って見た
- 4) 開発中期のドローイング。ボタンがエンリコ・ファミアの頭文字EFになっている! 図版左下のロゴマークと比較されたい



3



4

「ヨーロッパにはレーダー探知機という製品がなく、“自分が最初のユーザー”という、私がモットーとするデザイン手法を使えないため不安があったが、デザイナーの仕事は挑戦することにある。ユピテルも革新的なデザインを求めており、白紙からのデザインということで仕事自体もチャレンジングだった」

ユピテルからフミア氏へ技術的要件は何もなかった。「要件を与えると従来デザインの延長になってしまう。そうではない自由な発想からの、これまでと違った切り口がほしかったからだ」と倉田課長は語る。

また倉田課長は、従来デザインは機能に特化していて、製品がクルマの中で目立ち過ぎていたと分析する。この点はフミア氏も同感で両者の“波長”が合った。

「装置を隠すのではなく美しい造形でユーザーを満足させたい。しかし室内全体のデザインの中で浮いたものにはしたくなかった」。そしてフミア氏のカーデザイナーとしての経験が生かされることとなった。

## 跳んでる？ 跳んでない？ 未来への期待

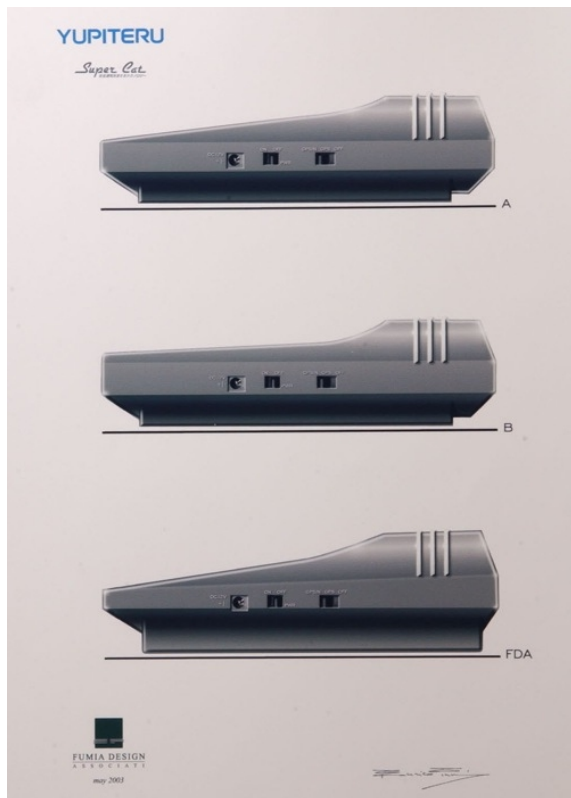
フミア氏は自分が得意とし、また好みでもある、クリーンでシンプル、落ち着いたデザインを展開した。フミア氏は、ユピテルのマーケティングで興味深い点を指摘する。「レーダー探知機は、安全なドライブを支援する情報機器というスタンスだ。相手に対して攻撃的な存在ではないのだ」



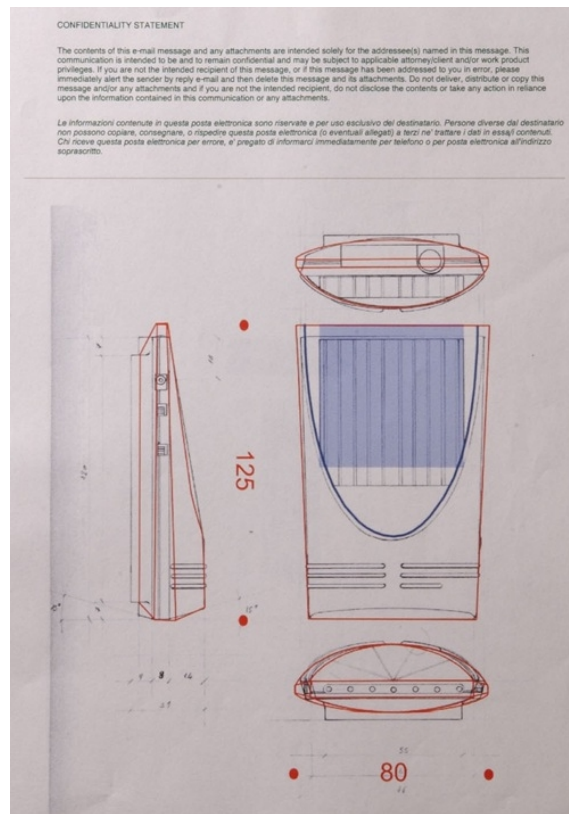
エンリコ・フミア氏

2月に顧問契約を結んで、早くも4月にフミア氏は最初のデザイン案を提出した。レンダリングで十数案、さまざまな方向性を提示した。倉田課長は、フミア氏の「改善しよう」という意志をこれらのレンダリングに感じたという。バリエーションは、現行モデルよりデザインコンセプトが少し進化したものから、大きく飛躍したものまで。そして採用されたのはほぼ中間に当たる案だった。

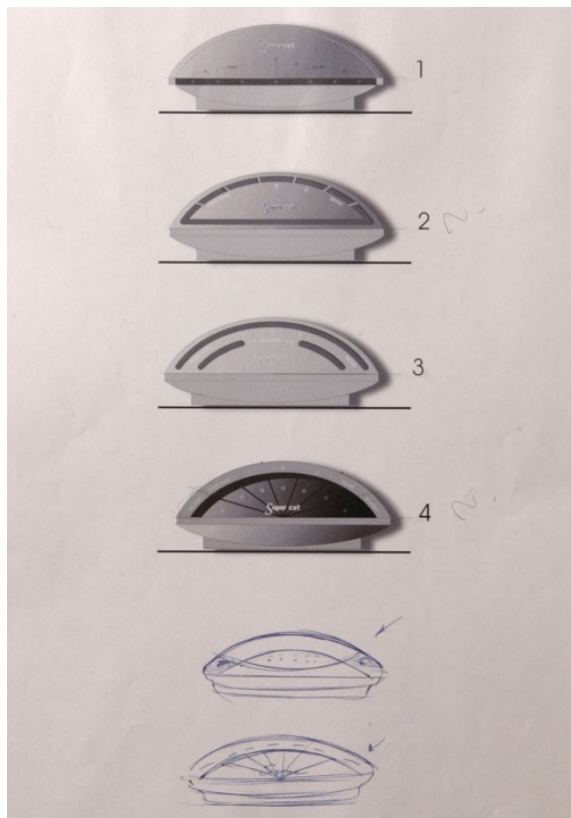
倉田課長は選択の理由を説明する。「少しの進化ではフミア氏に依頼した意味がない。いっぽう最もアドバンスした案は、おそらくフミア氏自身の最終的な希望はこれだと思うが、市場がついてこない恐れがある。先進性と市場性とのバランスがよい案を採用した」。ただしアドバンスした案も将来のユピテル製品に生かされるそうで、初期デザイン案はSG-500DW向け採用案のみが公開された。



1



3



2

1) 開発中期のドローイング。ソーラーパネルの取り付け角度や、側面のボリューム感を検討。取り付けブラケットのデザインはフミア氏の担当ではないが、デザインの連続やボリューム感は考慮された

2) 操作/表示面の検討。採用案は「4」。クルマの円形メーターがモチーフで、自動車内のデザイン統一をねらったもの

3) このような修正案のやりとりがイタリアと日本との間で行なわれた



ユピテルの倉田課長と、国内営業本部販売企画課の鈴木賢二課長

レンダリングがそのまま商品化されることはまれだ。ここから商品としての具現化のために、エンジニアなどとの協同開発作業が始まる。初期デザイン案でもおもに問題になったのは太陽電池パネルの保持だった。パネルの主な素材はガラスであり、製品が落下した時に破損しないようにするなどの要件が生じた。

フミア氏は「難しいことは楽しいこと。問題乗り越えることがデザイナーのやりがい」と、この間のプロセスを表現する。フミアデザイン実現のためにユピテルのエンジニアがもっとも努力した部分でもあった。デザイン開発作業は、フミア氏が来日することもあったが、トリノと東京都の間でデータをやりとりして進めた。ユピテルからのレスポンスは常に良かった、とフミア氏は振り返る。

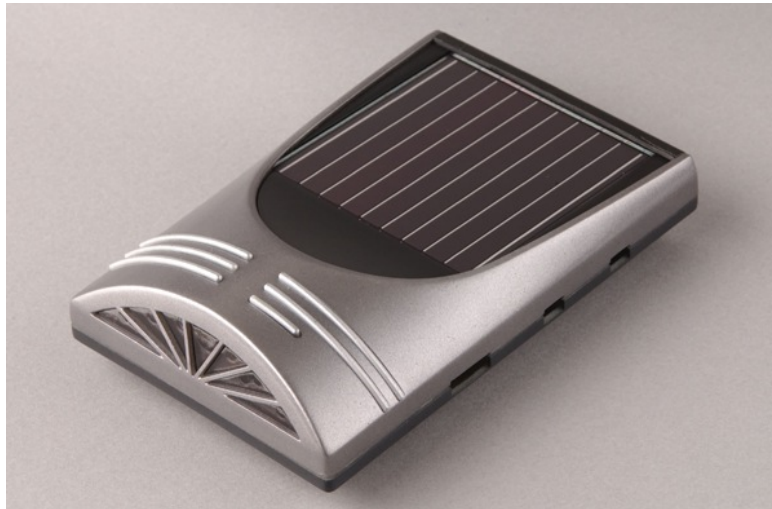
SG-500DWが東京都心に “ 建った ” ら……

最終的な製品デザインでは、ほぼ初期レンダリングのままの、シンプルなイメージが実現した。「シンプルなデザインは平凡になりがちなので、そうならないように注意した。また記号的な覚えやすいグラフィックスは、機能がユーザーに伝わりやすい」とフミア自身は解説する。

竹を斜めに切ったようなモチーフだが、日本的な要素の反映は意識しなかったそうだ。「ただ、日本の現代建築は素晴らしいと思っている。SG-500DWのようなビルが東京に建っててもいいのではないかな（笑）。日本車のデザイントレンドも建築のようなシンプルな方向だ」とフミア氏。

フミア氏のユピテルへの協力はデザイン全般の顧問であり、SG-500DWのデザインに留まらない。倉田課長はSG-500DWの成果を喜びながらも、デザインに最終形はない、と語る。そして「顧問としてめいっぱいユピテルのデザイン向上に貢献してほしい」と期待を隠さない。

フミア氏は今後のユピテルのデザイン・アイデンティティについて、こう語る。「まず、異なった製品で似通ったデザインにするのではない、ということ。それぞれの商品特性を表現したい。そしてシンプル、クリーンという点で統一感を出す。様々な要素を調和させている日本の伝統建築がヒントだ。そこにイタリア人デザイナーだからこそのという要素を加えたい。ではイタリアらしさとは何か。それは創造性だ。模倣はしないということだ」



1



2

1) 初期の原寸大モデル

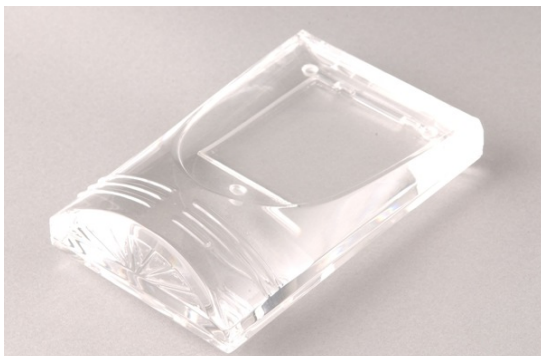
2) 最終デザインの原寸大モデル。クルマのダッシュボードデザインとの調和や、ウィンドシールドへの映り込みを考慮してボディ色が暗くなった

3) 木製原寸大モデル。トリノのモデル職人の技!

4) アクリル製原寸大モデル。上下2分割でき、間に色のついた紙を挟むことによって、ボディ色のおおまかなイメージがつかめる



3



4



SG-500DW最終デザイン。機能的なトピックスとしては、GPSモジュールをカスタム化したことで80時間連続可動を達成したことがあげられる。従来は別に電源をもつカーナビ用のモジュールを流用しており、本機ではレーダー探知機用に省電力化を図った。また位置、季節、時間に応じて各種警告灯の明暗を自動調節するフレックスディマー機能や、デジタル無線、取締無線、カーロケ無線の遠近などを告知する機能も採用。

仕様 電源電圧：DC3.6V（専用ニッケル水素電池1.2V×3）、DC12V（シガープラグ入力充電電圧） 消費電流：待機時6mA以下（GPS/UHF/VHF部OFF時）、最大190mA以下 受信方式：[GPS部]16チャンネルノパラレル受信方式、[レーダー部]スイープオシレーター式ダブルスーパーヘテロダイン方式 受信周波数：[GPS部]1.6GHz帯、[レーダー部]Xバンド/Kバンド、[UHF部]350.1/407.7MHz帯、[VHF部]159/160MHz帯 動作温度範囲：-20～+85（GPS部：-20～+80、UHF/VHF部：-10～+60） 本体外形寸法：78（W）×35（H）×120（D）mm 本体重量：220g（電池含む）

ユピテル工業株式会社

<http://www.yupiteru.co.jp>

〒108-0023 東京都港区芝浦4-12-33

Fumia Design Associati

<http://www.fumiadesign.com>

Strada del Mainero, 64, 10131 Torino - ITALY